

平成 30 年度 事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

公益社団法人大日本書芸院

1 事業の概要

不特定多数の書道を愛する国内外の人々に対して、書道芸術の指導、普及推進を図る。又、若手作家の発掘や育成のため、展覧会に新人賞を設定、更には会場内で席上揮毫を実施する等、充実した展覧会を開催し、一般公衆に対し一層の書道芸術の普及振興を図る。

2 事業実施に関する事項

1 - 1 書道展覧会事業（公益目的事業 1）

書道に関する作品を展示し、一般公衆に普及を図るための書道展覧会事業

(1) ア. 第 79 回 国際文化交流 公益社団法人大日本書芸院展の開催

会 期：平成 30 年 6 月 23 日(土)～30 日(土)

会 場：東京都美術館 ロビー階第 1.2 展示室

(東京都台東区上野公園 8-36)

出品者総数：1,682 名

内訳：国内 979 名 中華人民共和国 68 名 台湾 635 名

展示点数：1,007 点

入場者数：8,496 名

作品内容：漢字・近代詩文・前衛書・仮名・水墨画

褒 賞：内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・北村西望賞・大賞・準大賞・

福田賞・中曽根賞・国際文化賞・特別賞・奨励賞・

横須賀市教育委員会教育長賞・推薦・特選・準特選・秀作・

佳作・褒状・新人賞を授与した。

授 賞 式：平成 30 年 6 月 24 日(日) 東京都美術館【講堂】

(東京都台東区上野公園 8-36)

一般公衆への書道芸術に触れる機会を増やし、又、73 回展より新人賞を新設、若手作家の育成を図った。

また、第 74 回展より本部所在地の横須賀市教育委員会より後援を受け、「横須賀市教育委員会委員長賞」、第 78 回展より「文化庁」、第 79 回展より神奈川県教育委員会、徳島県教育委員会の後援を頂き、自治体との交流を図った。

さらには、会場内にて下記の通り席上揮毫を実施、観覧者とのコミュニケーションを図り、一般公衆に対して、書道芸術がより身近なものとなるよう努力した。

席上揮毫

日時：平成 30 年 6 月 23 日(土)

午前 10：30～午後 12：30

会場：東京都美術館 ロビー階第 1 展示室内

観覧自由（無料）

内容：一般部として本院役員及び地域書道普及員 3 名が、聯落漢字作品・聯落近代詩作品・全紙前衛作品を揮毫した。

学生部として本院会員から選抜された 16 名が、半切漢字作品を揮毫し披露した。

イ. 第 79 回 国際文化交流 公益社団法人大日本書芸院展作品集の刊行

本展の開催に伴い、作品集を刊行した。

内容は、国内出品者全員の作品を収録、出品者全員に配布し、諸外国からの出品作品については、推薦受賞以上の作品を収録、上位入賞者に配布した。

発行日：平成 30 年 9 月

発行部数：1.110 部

国内出品者配布数：1.017 部

諸外国への配布数：60 部

贈呈部数：33 部

(2) 新春誌上展覧会の開催

書道に興味のある不特定多数の人々に対して、書道作品を本院会誌「日本書芸」3月号誌上に掲載し、書道芸術の普及振興を図る。

第 79 回（平成 30 年 6 月 23 日から 8 日間開催）大日本書芸院展覧会より、「第 1 回学生部選抜大日本書芸院展」として、開催会場である東京都美術館において全国の学生上位授賞者（計 100 名程度）の作品を展示、出品者全員に楯と賞状を授与した。

また、第 80 記念新春誌上展の学生部の作品は、誌上展覧会として、全作品を本院ホームページにおいて掲載した。

表彰	秀 華 賞	9 名
	優 華 賞	11 名
	大日本書芸院賞	11 名
	学 年 代 表 賞	69 名

出品者数 一般部：1,559 名（内、高校生 108 名）

学生部：1,242 名（内訳：小学生 960 名・中学生 282 名）

(3) 地区連合書道展の開催

表（表 1-1）のとおり、9 地区において地域主体の書道展を開催し、地元の作品を地元の人々に鑑賞してもらうことで、各地域での身近な芸術として、書道芸術の普及振興を図った。

（表 1-1）

展覧会名	会 期	出品点数	入場者数
第 44 回青森地区連合展	H30.4.26～29	49 点	541 名
第 42 回徳島地区連合展	H30.7.14～16	373 点 (学生部含)	1,024 名
第 40 回記念群馬地区連合展	H30.8.17～22	97 点	664 名
第 29 回八戸地区連合展	H30.8.24～26	59 点	427 名
第 8 回横須賀地区連合展	H30.9.15～17	206 点 (学生部含)	717 名
第 34 回湘南地区連合展	H30.9.25～30	54 点	427 名
第 32 回東京地区連合展	H30.10.3～9	75 点	616 名
第 29 回千葉地区連合展	H30.10.26～29	43 点 (学生部含)	239 名
第 17 回横浜地区連合展	H30.11.15～20	96 点	815 名
合 計		1,052 点	5,470 名

1-2 書道教育指導事業（公益目的事業2）

貴重な文化遺産である書道を広く一般大衆に普及させるための書道教育指導事業

(1) 書道芸術の研究及び指導

ア. 書道技術の上達を希望する一般市民に対し、一般部・中学生部・小学生部に分けて、毎月20日締切で全員に課題の出品を義務付け、基本の確立を計った。

さらに中学生以上には、半紙臨書及び小筆による漢字・仮名と、美しい毛筆書を習熟させた。

又、一般部には研究課題として、半紙臨書、半切漢字・仮名・臨書、王羲之・顔真卿等の優れた古典の書法、技法を習得させるほか、現代書風の研究として前衛書、近代詩文書の指導を行った。

イ. 講習会指導

7地区における書技の向上を図るための講習会（練成会）を表（1-2）の通り実施した。

（表 1-2）

地 区	日 付	受講者
青森地区練成会	H30.2.4	38名
横浜横須賀湘南地区練成会	H30.2.12	80名
徳島地区練成会	H30.2.18	59名
群馬地区練成会	H30.3.3	46名
東京地区練成会	H30.3.4	58名
八戸地区練成会	H30.3.4	51名
横浜横須賀湘南地区練成会	H30.3.11	79名
合 計		411名

ウ. 刊行物

当法人で作る「日本書芸」を研究誌として刊行、主に会員に配布した。

(2) 文化事業への協力

各地域における市民文化祭、書道連盟展に積極的に協力した。
友誼団体との交流を図った。

参加文化事業

第 71 回横須賀市民文化祭（市民書道展）

会 期：平成 30 年 11 月 9 日(金)～11 月 12 日(月)

会 場：横須賀市はまゆう会館

出品者数：171 名（学生 287 名）

観覧者数：882 名

第 46 回横須賀書道連盟展

会 期：平成 31 年 3 月 8 日(金)～3 月 10 日(日)

会 場：横須賀市文化会館 3 階 市民ギャラリー

出品者数：150 名

観覧者数：696 名

2－1 昇段級試験（収益事業 1）

書道の習熟度を計るための試験を実施し、段級付与及び証書を交付する事業

(1) 準師範以下の会員に対し毎年 1 回、9 月に昇段級試験を実施、習熟度を計った。

受験者数	一般部	583 名
	・師範部(四段以上取得者で、師範へ昇級を望む者)	104 名
	・条幅部(初段以上取得者で、準師範までの昇級を望む者)	214 名
	・半紙部(1 級甲～5 級甲の級取得者)	265 名
	学生部	1,248 名
	計	1,831 名

平成 30 年 9 月 29 日受験作品応募締切、昇級後の証書を出品者全員に交付した。

3－1 教材頒布事業（その他事業 1）

主に会員向けに教材等を頒布する事業

(1) 硯・墨・筆・紙等の書道用品の販売

市販の書道用品は個人で購入すると高価なため、業者から安価に物品を仕入れ、主に地域書道普及員から注文の都度、本部事務所より安価に物品を販売した。

(2) チャリティカレンダー（1部¥1,500）を制作頒布。売上金の一部を社会福祉として寄付をした。

平成30年12月より頒布

発行数：1,200部（頒布数：1,164部 贈呈数：36部）

寄付先：北海道胆振東部地震災害義援金として

寄付額：30万円（H30.10.11）

寄付先：横須賀市社会福祉事業費として

寄付額：50万円（H31.3.5）